

平成30年度 基盤研究(B) (一般)

研究代表者：杉本 星子 総合社会学部 教授 70298743

研究題目：鶴見和子の内発的発展論を「受苦と共生の社会運動論」として現代に再考する実践的研究

鶴見和子は社会学者として初めてオーラルヒストリーを方法論として用いて個人と社会の関係を考察し、地域を基盤とし人と自然、異質な人と人の共生による創造的社会の構築を目指す内発的発展論を提唱した。東日本大震災以降、地域づくりや地域力への関心が高まるとともに、地域の文化・資源に根差し地域住民が主導する地域発展の在り方として鶴見の内発的発展論が改めて見直されている。本研究は、①京都文教大学に寄贈された鶴見和子文庫の中で、鶴見の内発的発展論の原点でありながらまだほとんど手がつけられていない水俣病公害問題の調査記録等の一次資料のデータベース化を通して、鶴見が生涯をかけて考え続けた内発的発展論の軌跡を明らかにし、②鶴見の内発的発展論を「語る・聴く・書く・読む」という言葉の共有を通じた「受苦と共生(ともいき)の社会運動論」として戦後の社会思想史のうちに位置付け直すことにより、③少子高齢化や社会格差の拡大、多数の震災被災者の発生と地域の多文化化の進行によって社会的弱者が多数化する現代社会において、鶴見の内発的発展論を「受苦の共感」とそれを通じた「創造的な共生(ともいき)社会」の構築に向けた社会運動論として学際的に議論し、批判的継承を目指す。

※H30 研究計画調書より抜粋